

夕ぐれの岡

夕ぐれの岡は、江戸時代に国上寺の中興といわれ、辛苦の末、本堂を建設された万
元上人や良寛によって歌に詠まれている。

碑は昭和 11 年に地元有志により建立されたもので、碑文の筆者は当時新潟高等女
学校教師池田鷺村である。

良寛が托鉢の道すがらよく足を止めた場所とされ、かつて五合庵に住んでいた萬元
和尚を偲んだ歌をうたったとされている。

忘れずば道行きふりの手向をも ここを瀬にせよ夕ぐれの岡

そして後年、良寛もこの岡で萬元を偲び次の詩を詠んでいる。

夕ぐれの岡に残れる言の葉の あとなつかしや松風ぞ吹く

そのころのおもかげは一変してしまっただが、この岡だけは残り、松籟をききながら
往時に思いを馳せる絶好の憩いの場となっている。

